



日本プロセス株式会社

決算説明会

2011年5月期第2四半期累計

2011年1月12日

- 1)2011年5月期 第2四半期連結決算について**
- 2)2011年5月期 通期業績見通しについて**
- 3)2011年5月期 第2四半期の取組みについて**

1)2011年5月期 第2四半期連結決算について

2)2011年5月期 通期業績見通しについて

3)2011年5月期 第2四半期の取組みについて

2011年5月期第2四半期 連結決算の概況

単位:百万円

	計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	2,155	0	2,154	△67	2,222
営業利益	5	△20	△15	△96	80
経常利益	20	△15	4	△92	97
四半期純利益	3	△17	△14	△70	55

【対前年】

●売上高:

発電関連および自動車関連などの制御システムは増加。特定情報システム、交通システムは戦略的な請負化や案件の大型化のため検収時期が後ろ倒しに、その他のシステム開発やITサービスは情報化投資の抑制が継続し減収。

●営業利益:

次世代携帯電話の開発開始遅れによるアイドルや不採算プロジェクトによる収益悪化、技術者養成の教育費用や次期社内インフラ費用などの販管費増などにより減益。

●経常利益、当期純利益:

営業利益減により減益。

【対計画】

●売上高:

制御システム、交通システムは受注が拡大し計画超。
組込システムは次世代携帯電話システムの開発遅れ、
特定情報システムは案件の大型化による検収時期の
ずれ込みなどにより未達。全体としては計画通り。

●営業利益:

次世代携帯電話の開発開始遅れによるアイドルや
不採算プロジェクトなどによる収益悪化があり未達。

●経常利益:

受取利息、有価証券利息など20Mがあったものの未達。

●当期純利益:

事務所開設に伴う費用や資産除去債務など10Mの増加
もあり未達。

【トピックス】

●需要にあわせた人材の最適配置

好調な制御システム、交通システムに人材を集中。

●工事進行基準の適用

第2四半期進行中プロジェクトの売上35百万円。

●社内次期インフラ構築中

社内情報のタイムリーな共有と生産性の向上。

●立会外分売の実施

株主利益と流動性の向上。

●資産除去債務会計基準：約7百万円

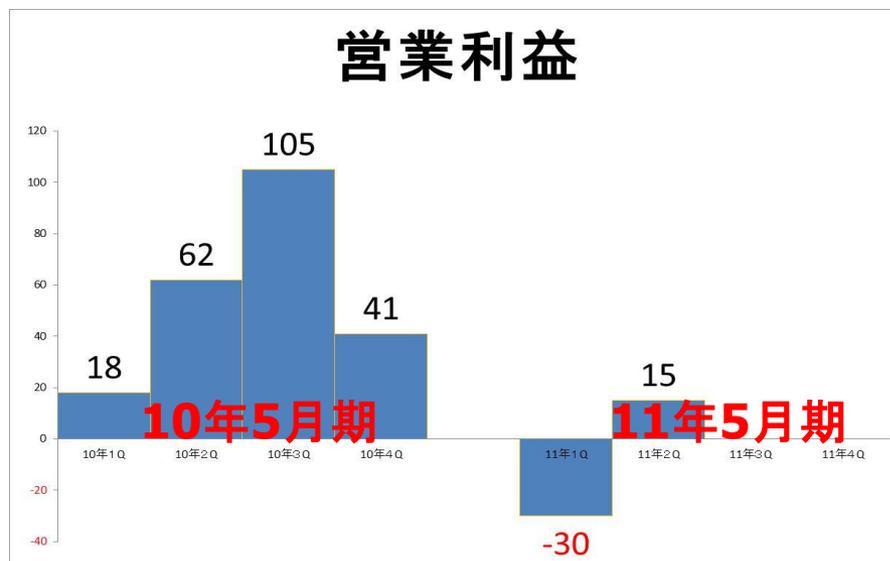
連結決算の概況(四半期推移)

単位:百万円

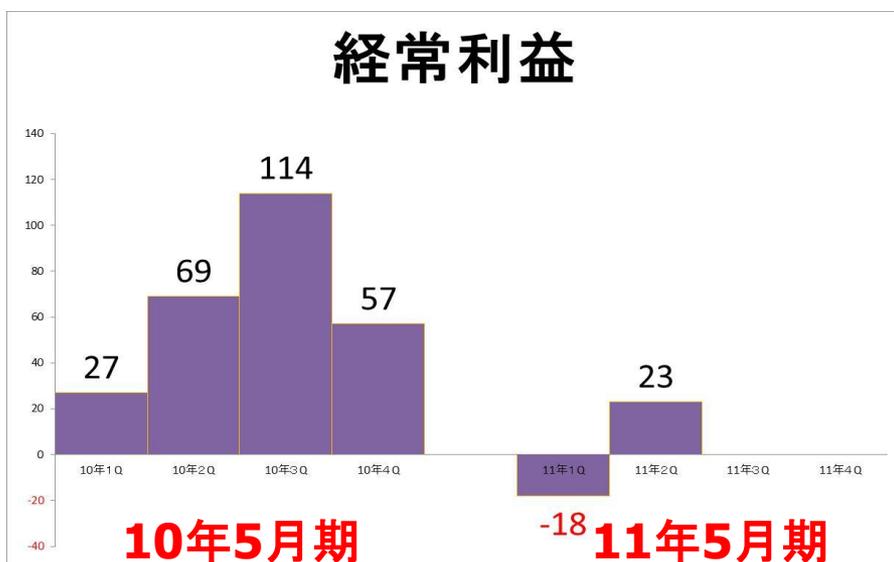
売上



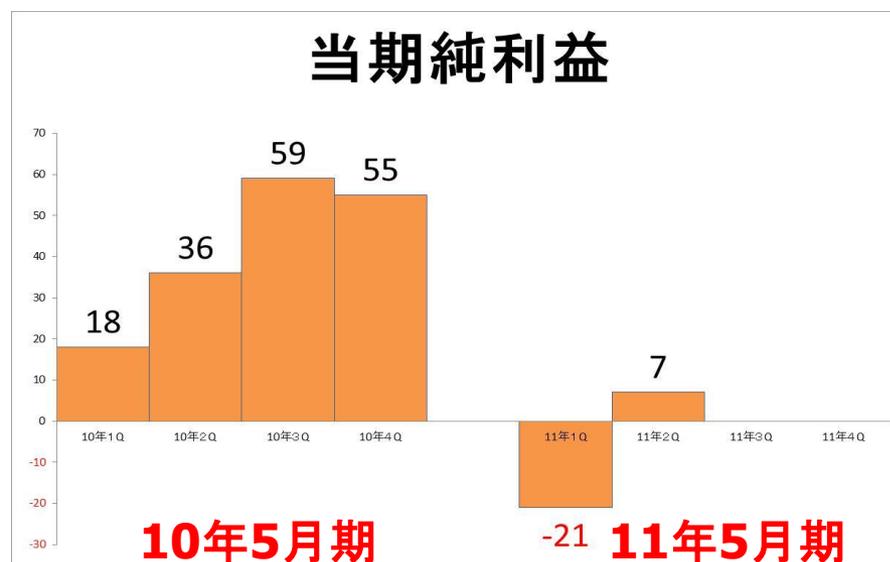
営業利益



経常利益



当期純利益



2011年5月期第2四半期 セグメント別売上実績

単位:百万円

セグメント		10年5月期 第2四半期	11年5月期 第2四半期	増減額 (増減率)
制御 システム	売上高	287	458	171
	(構成比)	(12.6%)	(21.2%)	(59.8%)
交通 システム	売上高	446	332	△113
	(構成比)	(19.7%)	(15.3%)	(△25.5%)
特定情報 システム	売上高	267	257	△9
	(構成比)	(11.8%)	(11.9%)	(△3.4%)
組込 システム	売上高	610	552	△58
	(構成比)	(26.9%)	(25.5%)	(△9.5%)
産業・公共 システム	売上高	208	213	4
	(構成比)	(9.2%)	(9.8%)	(2.1%)
ITサービス	売上高	448	354	△94
	(構成比)	(19.8%)	(16.3%)	(△21.1%)
売上合計	売上高	2,269	2,169	△99
				(△4.4%)

※セグメント間取引については、相殺消去していません。

財務指標(その他)

	10年5月期 第2四半期	11年5月期 第2四半期
純資産額	8,162百万円	7,975百万円
1株当たり純資産	1,438.25円	1,438.24円
1株当たり当期純利益	9.79円	△2.54円
自己資本比率	92.2%	93.3%
自己株式	69,913株	200,092株
従業員数	518人	532人

連結キャッシュ・フロー

単位:百万円

区 分	10年5月期 第2四半期	11年5月期 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△10	△187
投資活動による キャッシュ・フロー	△96	149
財務活動による キャッシュ・フロー	△140	△82
現金及び現金同等物の 増減額	△246	△120
現金及び現金同等物の 期首残高	2,471	1,510
現金及び現金同等物の 期末残高	2,224	1,390

1)2011年5月期 第2四半期連結決算について

2)2011年5月期 通期業績見通しについて

3)2011年5月期 第2四半期の取組みについて

2011年5月期 通期業績見通し

単位:百万円

	10年5月期 実績	11年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	4,641	4,960	319 (6.9%)
営業利益 (営業利益率)	228 (4.9%)	240 (4.8%)	12 (4.9%)
経常利益 (経常利益率)	269 (5.8%)	340 (6.9%)	71 (26.4%)
当期純利益 (当期純利益率)	170 (3.7%)	204 (4.1%)	34 (19.5%)

- 2010年12月27日に第2四半期業績予想の修正を発表しました。
通期に関しては、経済環境の変化が激しく顧客の動向を見極める必要があるため、今のところ通期連結業績予想の変更はいたしません。

セグメント別売上見通し

単位: 百万円

2010年5月期

セグメント	売上高 (構成比)
制御系	2,153 (46.4%)
組込系	1,260 (27.2%)
基盤系	337 (7.3%)
業務系	441 (9.5%)
情報サービス	447 (9.6%)
売上高合計	4,641

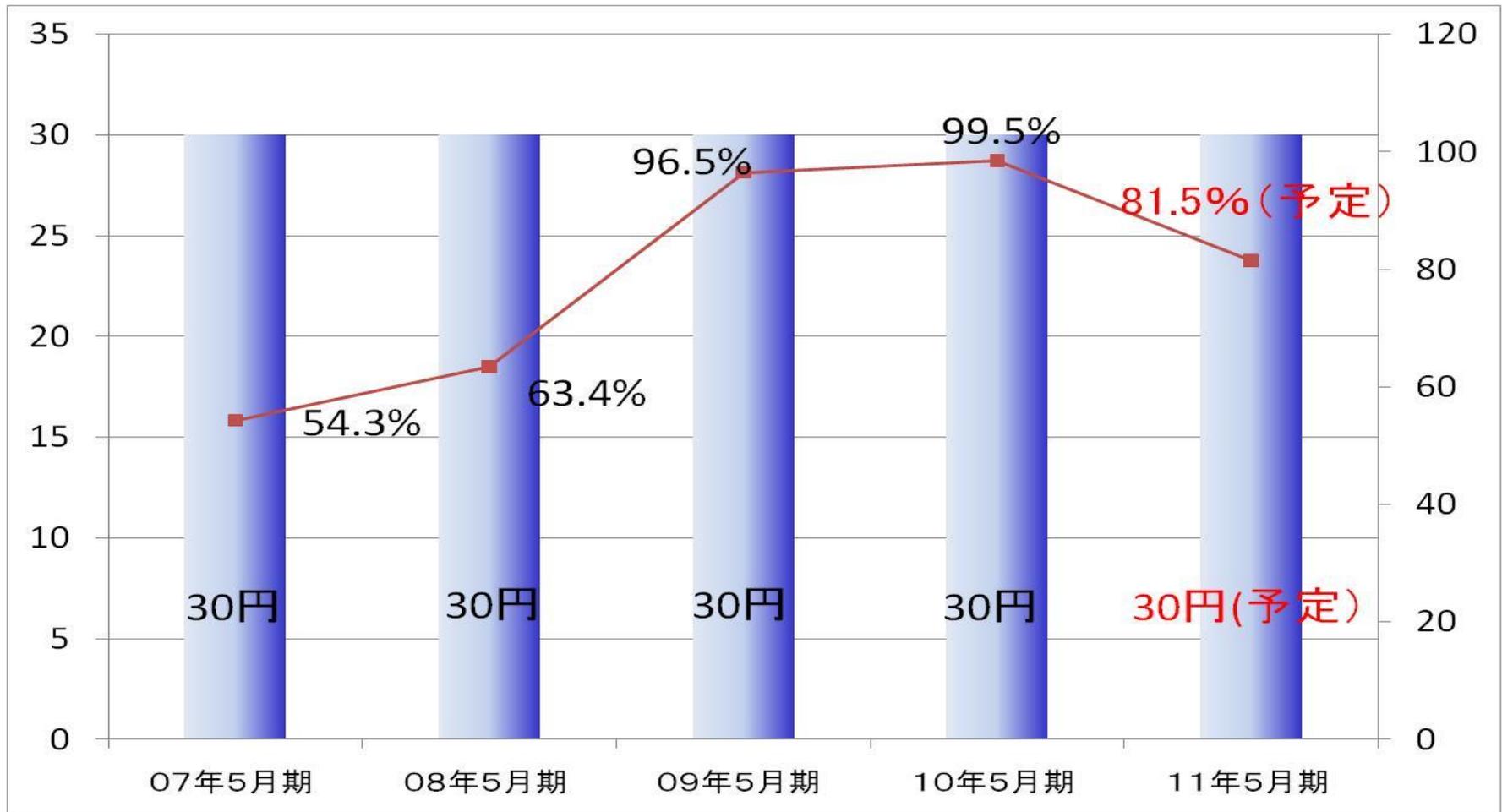
2011年5月期

セグメント	売上高 (構成比)
制 御	830 (16.7%)
交 通	950 (19.2%)
特定情報	640 (12.9%)
組 込	1,280 (25.8%)
産業・公共	740 (14.9%)
ITサービス	520 (10.5%)
売上高合計	4,960

●2011年5月期よりマネジメントアプローチによるセグメントに変更しました。

株主配当の推移

株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策として位置付け、
安定的な配当の継続と配当性向50%以上を目標として実施してまいります。



1)2011年5月期 第2四半期連結決算について

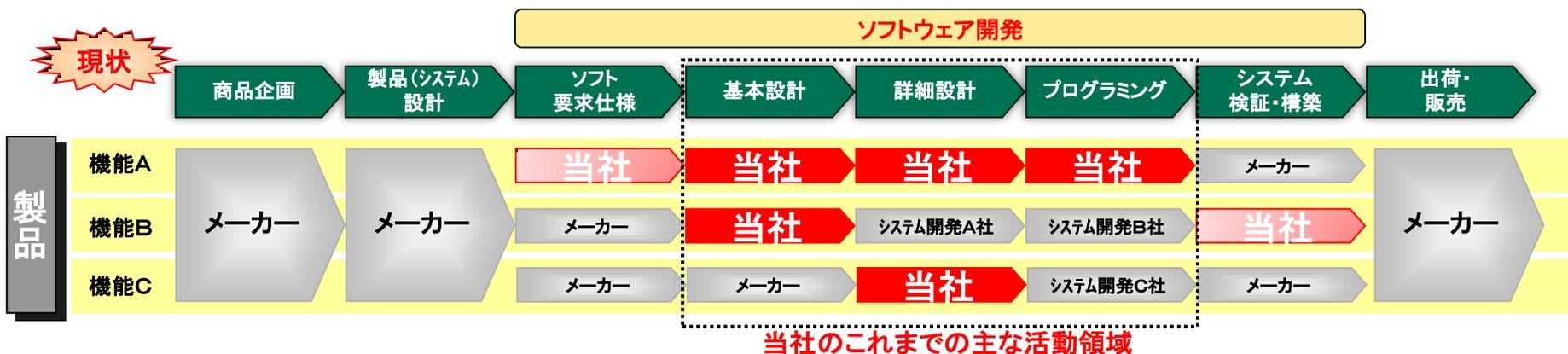
2)2011年5月期 通期業績見通しについて

3)2011年5月期 第2四半期の取組みについて

中期経営戦略

ソフトウェア技術と品質で、『社会の安全、安心、便利』に貢献する。

→ T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)



中期経営戦略

トータルサービスで品質向上 メーカーはコアコンピタンスに集中



◆営業強化

営業専任者の採用、既存顧客の横展開強化

◆事業運営の効率化

事業部制移行、子会社を含めた再編・効率化

◆人材育成(継続)

管理者、技術者教育の充実

◆採用強化(継続)

不況期は優秀な人材採用のチャンス

◆営業強化

営業専任者の採用、既存顧客の横展開強化

1) 新規取引顧客/事業分野

日本電気(株)、(株)日立産機システム、富士電機システムズ(株)、

東芝ビジュアルプロダクツ社、東芝ストレージプロダクツ社、東芝セミコンダクター社など。

- ・新規顧客との取引を開始したが、取引拡大には時間が必要。
- ・新規事業分野として、eSSD関連の開発案件を受注。

2) 当社事業所の新設(顧客サービス向上、対応速度向上)

- ・横浜事業所 : 特定情報システム事業部
- ・浜松町事業所 : 産業・公共システム事業部
交通システム事業部

◆事業運営の効率化

事業部制移行、子会社を含めた再編/統合

1) 子会社合併(CSP/ISI)

- ・単価見直しや成長性のない業務からの撤退。
- ・人材の最適配置。
- ・管理費削減/管理業務効率化。
- ・グループ全体での資産運用。

2) 事業部制移行

- ・子会社を含め、業務内容により事業部に再編/統合。
- ・事業損益の明確化。(マネージメントアプローチセグメント)
- ・マネージメントの効率化、迅速化。

◆人材育成(継続)

管理者、技術者教育の充実

◆採用強化(継続)

不況期は優秀な人材採用のチャンス

- 1) 上級専門職制度(プロフェッショナル職位)の導入
- 2) マネージャー研修、プロジェクトマネージャー育成教育、一般社員研修など計画的に実施。
- 3) 新入社員の組込システム技術者研修の実施
→キャリア形成助成金対象。
- 4) 新人採用 2010年4月採用実績:39名
2011年4月内定者:36名

1) 制御システム事業部

- ・海外発電所(特に新興国向け)関連のシステム開発の受注好調。
- ・発電所運転訓練シミュレータ開発を受注。
- ・HEV/EV関連のシステム開発を拡大。

2) 交通システム事業部

- ・次期東京圏輸送管理システムの開発を受注。
- ・新幹線の既存運行管理システムのリプレースと延伸対応が好調。
- ・GISによる施設管理システムを受注。

3) 特定情報システム事業部

- ・長期大型案件を受注。
- ・画像処理技術に続くコア技術として、音声検索技術の案件を受注。

4) 組込システム事業部

- ・eSSD関連システムの開発案件を受注。
- ・スマートカードの開発を受注。
- ・次世代携帯電話システムの開発がスタート。
- ・スマートフォン開発に注力。

5) 産業・公共システム事業部

- ・新規顧客との取引を通じ、他案件にアプローチ中。
- ・子会社より統合したプロジェクトの見直し、マネージメントを強化。

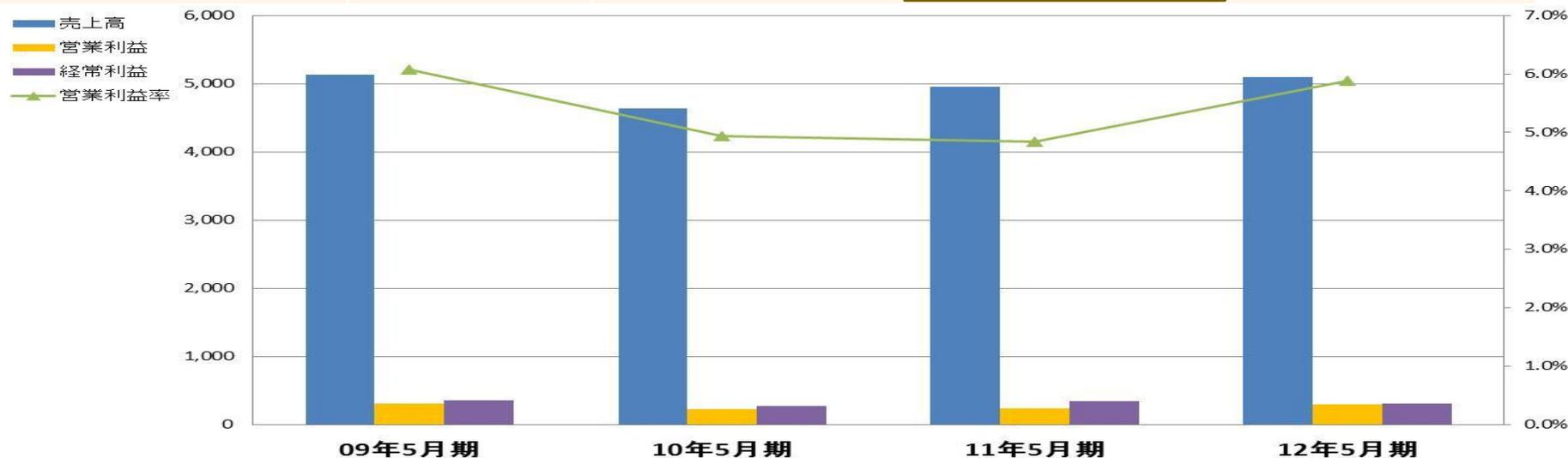
6) ITサービス事業部

- ・子会社より統合したプロジェクトを見直し、利益率改善。
- ・他部署との連携を深め、構築/検証サービスの営業強化。
- ・現在構築中の自社次期インフラ構築を通しノウハウを蓄積し、今後の武器にすべく活動中。

中期経営計画数値

単位:百万円

	09年5月期 実績	10年5月期 実績	11年5月期 計画	12年5月期 計画
売上高	5,131	4,641	4,960	5,100
営業利益	311	228	240	300
営業利益率	6.1%	4.9%	4.8%	5.9%
経常利益	354	269	340	310
経常利益率	6.9%	5.8%	6.9%	6.1%
当期純利益	178	170	204	175



『安定から成長へ』

トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの展開により、
企業価値向上を目指すとともに、制御系/組込系/基盤系分野
のリーディングカンパニーを目指します。

お問合せ

経営企画部長 米島英紀

hideki.yoneshima@jpd.co.jp

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。
これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、
既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。